

歯学部 60 周年・口腔健康科学科創立 20 周年記念講演会について

平素より同窓会活動に格別のご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

2026 年 2 月 21 日 (土)に開催される歯学部 60 周年・口腔健康科学科創立 20 周年記念講演会につきまして同窓会より再度ご案内をさせていただきます。

本講演会では、同窓会よりご推薦させていただきました、**18 回生の石川知弘先生 (静岡県開業)**をお招きし、「**なぜ、歯医者になってよかったか、不可能を可能にする 歯科再建治療**」という演題でお話しいただく予定です。

講師の石川知弘先生(18回生)は、1988 年ご卒業後口腔外科第一講座に入局され、1996 年静岡県浜松市にて石川医院を開院、1998 年より 2009 年まで JIADS 講師、2009 年より船登彰芳先生(17 回生)、北島一先生(17 回生)らと 5-D Japan を設立し、現在まで多くの歯科医師の教育にあたられています。その活躍の場は日本のみならず、海外の学会でのご講演、論文の執筆と、同窓生を代表してご講演して頂くに相応しい先生です。

今回のご講演では先生がこれまで歯科医師として歩んできた歴史を語っていただき、特に学生さんや若い先生達に、歯科医師という職業の素晴らしさを、先生の経験をもとに熱く語って頂くようご依頼しました。

この絶好のチャンスを見逃すことのないよう多くの皆様にご参加いただければと思います。

歯学部同窓会副会長 石田 秀幸(19 回生)

「なぜ、歯医者になってよかったか、不可能を可能にする歯科再建治療」

静岡県開業 石川知弘(18 回生)

卒業当時、幸いにも歯周治療やインプラント治療の分野において、それまで代替物で補うことしかできなかった失われた組織を、「再建」できる時代が訪れつつありました。

学生時代、内心では「自分は歯科医師に向いていないのではないか」と感じていた私にとって、この技術の進歩は、歯科医療に対する見方を大きく変える転機となりました。

振り返れば、これまで 38 年間の歯科医師人生の大半は、歯科再建治療の発展とともに歩んできたように思います。現在では、骨欠損が根尖にまで及ぶ歯であっても保存が可能となり、360 度歯根が露出した前歯部においても、一定の審美性を回復できるようになりました。また、下顎管まで 2mm 以下の骨しか残存していない部位においてもインプラント埋入が可能となり、前歯部の歯および周囲組織を大きく失った症例であっても、患者が自信をもって生活できる治療を提供できる時代になったと感じています。

歯科治療は、歯や口腔の機能・審美を回復するだけでなく、患者の人生そのものに大きく貢献できる医療であると、私は確信しています。そして、これらの歯科再建治療は、特別な施設ではなく、開業医レベルの設備で実践することが可能であり、その価値は、治療を行う私たちと患者自身によって決定されるものです。すなわち、条件はすべての歯科医師に等しく与えられています。

現在、この分野は若手歯科医師によってさらに洗練され、学術論文や SNS を通じて世界へと発信される、非常にエキサイティングな時代を迎えています。

本講演では、これまでの臨床症例を通して、歯科再建治療の可能性と、歯科治療の本来の楽しさ、そして歯科医療の未来についてお伝えしたいと考えています。